

I 学校の概要

学校名	益子町立益子西小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	3	2	3	3	1	16	24
児童数	71	76	85	74	92	92	6	496	

II 研究の概要

1. 研究主題

生き生きと課題をもって学習する子どもの育成を目指して
算数科における個に応じた指導方法や指導体制の工夫

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

1～6年生 算数（子どもの理解度に差が出やすい教科であり、高学年になるにつれて個人差が大きくなるため）

(2) 年次ごとの計画

平成 14 年度	○テーマ	生き生きと課題をもって学習する子どもの育成を目指して 算数科における個に応じた指導方法や指導体制の工夫
	○仮説	個に応じたきめ細かな指導方法や体制・教材の開発・評価を工夫すれば、児童一人一人に確かな学力が定着し、自信や意欲をもって生き生きと課題をもって学習する子どもが育つだろう。
	○研究の内容・方法	
	4	課題設定・研究計画作成・県の説明会の確認・時間割や日課表
	5	課題研究計画の共通理解・組織づくり・児童の意識調査・教師の意識調査
	6	児童の意識調査・指導訪問による全体研究
	7	各教科の評価規準（評価計画表）の作成・児童の実態調査と分析
	8	実践に向けた年間指導計画への位置づけ・計算力アップタイム計画の作成・指導案作成と教材の開発
	9	提案研究授業・指導案研究と教材の開発・保護者会・先進校視察
	10	研究授業（低・中・高各ブロック1）・指導訪問による全体研究・先進校視察
	11	研究授業（低・中・高各ブロック1）・研究授業のまとめ・先進校視察
	12	計算力アップタイムの自由参観の実施 児童の意識調査・実態調査・研究のまとめ 第2年次の日課表や時間割の検討
	1	研究の反省・保護者会・芳賀東小での授業参観等
2	1年次の研究紀要のまとめ・研究の反省 児童の意識調査・学力検査	
3	次年度の計画（日課表や時間割の作成・少人数指導の位置づけ等）	

平成
15
年度

○テーマ 生き生きと課題をもって学習する子どもの育成を目指して
算数科における個に応じた指導方法や指導体制の工夫

○仮説 個に応じたきめ細かな指導方法や指導体制、時間割編成、教材の開発、評価を工夫すれば、児童一人一人に確かな学力が定着し、自信や意欲をもち、生き生きと課題をもって学習する子どもが育つであろう。

○研究内容・方法

4	2年次の研究計画の作成、研究内容・方法の修正・焦点化 学年別研究（毎週木曜日）
5	実態調査問題作成、少人数指導・計算力アップタイム計画の作成、少人数指導・ 計算力アップタイムの実践、指導案形式についての検討
6	指導案検討（ブロック毎）第1回計画訪問（低・中・高）
7	研究授業の記録とまとめ、児童の意識調査・実態調査
8	系統表一覧作成、児童の意識調査・実態調査の分析、指導案検討（第2回計画訪 問と公開授業）教材開発（発展的な学習と補充的な学習）
9	授業研究、先進校視察
10	第2回計画訪問（低・中・高）研究授業の記録とまとめ
11	中間発表会・授業公開（低・中・高）
12	研究授業の記録とまとめ、児童の意識調査・実態調査
1	児童の意識調査・学力検査、教材開発（発展的な学習と補充的な学習）
2	研究の成果と課題
3	第3年次の計画、日課表や時間割等の検討

平成
16
年度

○テーマ 生き生きと課題をもって学習する子どもの育成を目指して
算数科における個に応じた指導方法や指導体制の工夫

○仮説 個に応じたきめ細かな指導方法や指導体制、時間割編成、教材の開発、評価を工夫すれば、児童一人一人に確かな学力が定着し、自信や意欲をもち、生き生きと課題をもって学習する子どもが育つであろう。

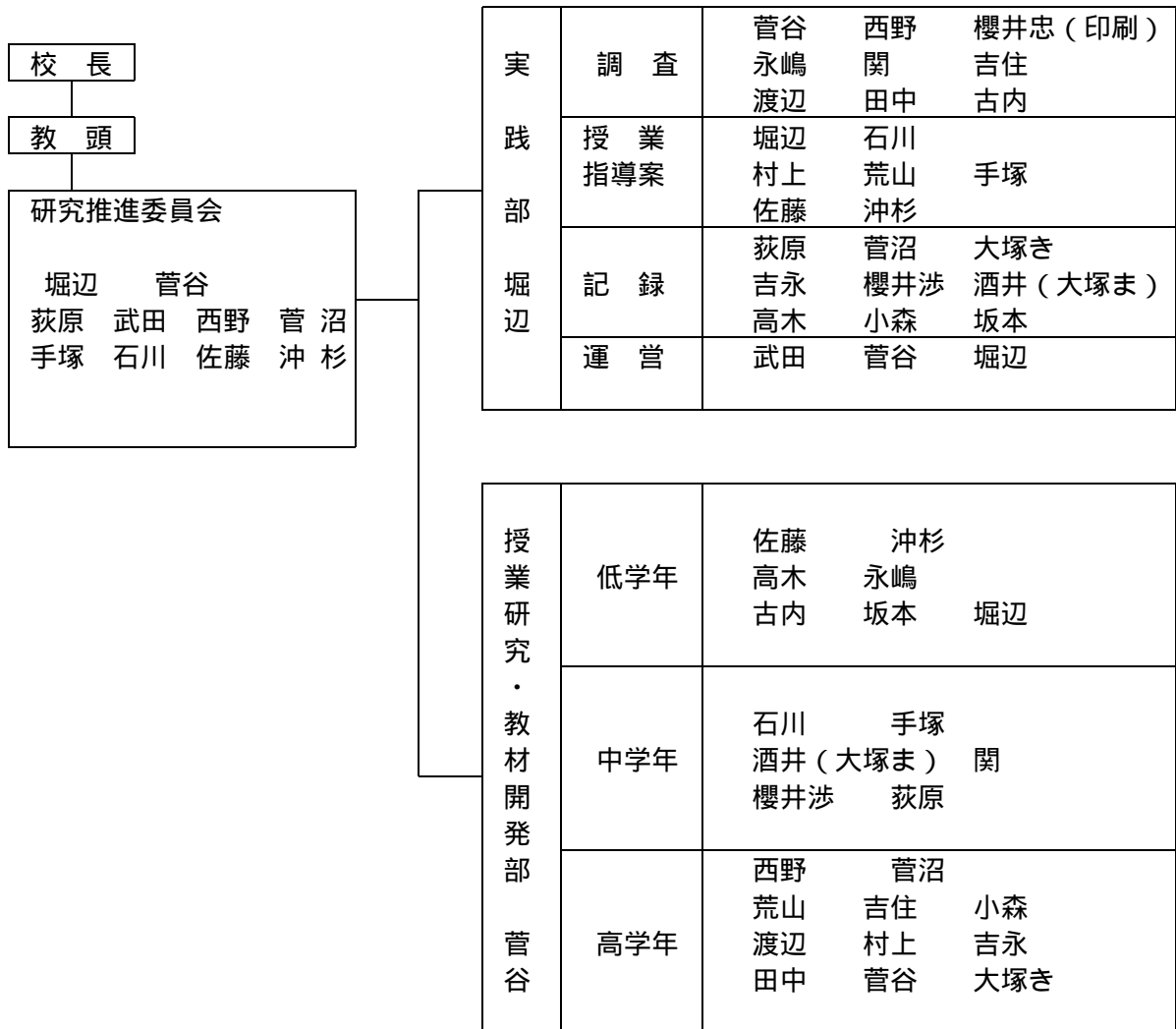
○研究内容・方法

4	3年次の研究計画の作成、研究内容・方法の修正・焦点化、学年別研究（毎週木 曜日）保護者会での研究説明、文章題の解き方の指導法検討・実践
5	実態調査問題作成、少人数指導計画・計算力アップタイム計画の検討、少人数指 導・計算力アップタイムの実践、指導案形式についての検討
6	指導案検討（ブロック毎）第1回計画訪問（低・中・高） 要請訪問（低・中・高）
7	研究授業の記録とまとめ、児童の意識調査・実態調査
8	児童の意識調査・実態調査の分析、指導案・資料作成（第2回計画訪問と公開授 業）研究紀要作成
9	授業研究、先進校視察・交換会、算数科授業の自由参観の実施
10	第2回計画訪問（低・中・高）研究授業の記録とまとめ
11	公開研究発表会（低・中・高）
12	研究授業の記録とまとめ、児童の意識調査・実態調査、保護者への経過説明
1	児童の意識調査・学力検査、教材開発（発展的な学習と補充的な学習）
2	研究の成果と課題
3	次年度の計画、次年度の日課表や時間割の検討

(3) 研究推進体制

研究の組織

個人の力が十分発揮される組織作りを目指したいと考え、以下のようにした。



Ⅲ 平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究の成果

- (1) T・Tによる指導では、座席表を活用することにより、特定の下位児童だけでなく、多くの児童に個別指導ができた。
- (2) 単純少人数指導では、人数の多いクラスの児童一人一人をより多く見取り、個に応じた支援を行うことができた。特に、操作的活動や習熟の場面で有効であることが分かった。
- (3) コース別学習では、児童の学習速度や進度に対応することができ、児童の意欲を持続させ、個に応じることができた。
- (4) 計算力アップタイムでは、自分に合ったペースで学習ができるため、満足感や成就感を味わうことができ、自信につながった。また、一人一人が着実に算数の力を身につけている。

《算数実態調査における達成度のようす》

数と計算領域 ～計算技能～ A:100～90% B:89～70% C:70%未満

学 年	実施月	A	B	C
2年	5月	80	15	5
	9月	91	8	1
3年	5月	64	33	3
	9月	79	19	2
4年	5月	64	27	9
	9月	68	26	6
5年	5月	50	40	10
	9月	57	28	15
6年	5月	52	27	21
	9月	71	18	11

数と計算領域 ～数学的思考～

学 年	実施月	A	B	C
2年	5月	49	26	25
	9月	70	21	9
3年	5月	65	27	8
	9月	69	19	12
4年	5月	45	36	19
	9月	62	28	10
5年	5月	47	25	28
	9月	66	23	11
6年	5月	51	40	9
	9月	70	18	12

- (5) 算数的活動が中心の授業には、4モジュールが効果的だった。
- (6) 学習プリントやヒントカードなど、教材・教具を工夫し、活用することにより、より児童の理解を深めたり、自分の力で解決しようとする意識を高めたりすることができた。
- (7) 座席表や自己評価カード、個人カルテを活用することにより、次時の指導に生かすことができた。

2. 今後の課題

- (1) これまで取り組んできた指導方法や指導体制を検証し、どの単元や学習内容で、どの授業形態がより個に応じられ、効果的なのかを明確にしていきたい。
- (2) 一斉指導やT・T指導、単純少人数指導においても、2～3コースを考えた学級内習熟度別学習を導入し、学級内での学習活動の充実を図っていきたい。
- (3) T・T指導での効果的な役割分担をさらに研究していきたい。
- (4) より効果的な指導をするために、単元指導計画の見直しをしていきたい。
- (5) 2モジュールの適切な学習内容の精選や4モジュールの指導効果等を実践を通してさらに明確にしていきたい。
- (6) 指導と評価の一体化を図るために、座席表や個人カルテ、自己評価カード等を活用するとともに、「無理のない評価活動」の在り方についても、さらに研究を進めていきたい。
- (7) 少人数指導を効果的に展開するためには、指導者同士の綿密な打合せが必要となる。打合せ時間の確保の仕方を工夫していきたい。

IV 学力等把握のための学校としての取組

1. 実態調査（確認テスト）について

- (1) 調査の目的
児童の学習到達度を把握し、学習状況の変容を捉えることで、指導の充実を図る。
- (2) 実施内容
前学年の学習内容
- (3) 時期
5月、12月の2回

2. 学力調査について

- (1) 調査の目的
児童一人一人の学習の到達度を把握し、学習指導に役立てる。
- (2) 実施教科
国語、算数
- (3) 時期
1月

V フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・ 中間発表会 平成15年11月11日（火）
- ・ 自主研修発表会 平成16年2月2日（月）
- ・ 研究紀要（第2年次のまとめ）発行 益子町小中学校等へ配布